

シンポジウム | 特別講演

多職種連携シンポジウム

地域包括ケアシステムに関わるための第一歩 ～成功と失敗に学ぶ多職種連携～

座長:高野 直久(日本歯科医師会 常務理事)、渡部 芳彦(東北福祉大学総合マネジメント学部)

Sat. Jun 23, 2018 9:50 AM - 12:00 PM 第1会場 (8F 大ホール)

【高野 直久先生略歴】

1982年 東京歯科大学卒業

1986年 東京歯科大学大学院修了(歯学博士)

1986年 東京歯科大学口腔外科学第2講座助手

1992年 高野歯科医院院長

1992年 東京歯科大学口腔外科学第2講座非常勤講師(現在:顎顔面口腔外科学講座)

2005年 (社)東京都歯科医師会理事, (社)東京都学校歯科医会理事

2016年 社会歯科学会理事, 日本顎関節学会監事

2016年 (公社)日本歯科医師会常務理事, (公財)8020推進財団常務理事

2017年 (公社)日本歯科医師会常務理事, (公財)8020推進財団専務理事

日本口腔外科学会専門医, 日本顎関節学会指導医・専門医, 日本口腔顔面痛学会指導医, 日本公衆衛生学会専門家, 労働衛生コンサルタント, 介護支援専門員

【渡部 芳彦先生略歴】

1996年 東北大学歯学部卒業

2000年 東北大学大学院歯学研究科修了(高齢者歯科学)

2000年 東北福祉大学感性福祉研究所PD研究員

2002年 東北福祉大学嘱託助手

2004年 東北福祉大学講師

2004～2005年 トゥルク大学歯学部(フィンランド)客員研究員

2009年 東北福祉大学准教授

2018年 東北福祉大学教授

日本老年歯科医学会 認定医・専門医・指導医

日本老年歯科医学会 多職種連携委員・在宅歯科診療等検討委員・代議員

【抄録】

これからも歯科医療を担い続ける者としては、従来の医療モデルから脱却し、対象となる人々の生活や生き方に関わる専門職チームの中で、その在り方を考えてみる必要がある。それこそが地域包括ケアシステムの構築であり、地域ごとに異なるリソース(社会資源)を把握し、多職種とのコミュニケーションの積み重ねにより実現され得る。

本シンポジウムでは、まず基調講演により平成30年度の医療・介護保険同時改定の内容から、歯科医療関係者が目指す方向性を確認する機会を得たい。そしてその上で歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士の3名のシンポジストにご登壇いただいて、それぞれの実践経験に学び、地域包括ケアの実現に向けた第一歩として、われわれが何を行うべきかの示唆を得たいと思う。特に今回は、事前の会員アンケートや当日会場でのリアルタイムのアンケートを行うことで、活発なディスカッションを展開できればと思う。

[S5-1]診療報酬・介護報酬同時改定のねらいと今後の調査研究について

○青木 仁¹ (1. 厚生労働省老健局老人保健課)

【略歴】

2007年 東京医科歯科大学歯学部卒業

2008年 歯科医師臨床研修修了

2008年 厚生労働省入省 医政局歯科保健課配属

2010年 保険局医療課歯科医療専門官

2012年 医政局歯科保健課企画調整専門官

2013年 医政局医事課試験免許室試験専門官

2016年 医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部基準審査課課長補佐

2017年 老健局老人保健課医療・介護連携技術推進官

国民一人一人が、住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるようにしていくためには、地域包括ケアシステムを推進していくことが必要である。今回の改定は、診療報酬と介護報酬の同時改定であり、医療・介護の役割分担と連携をより一層推進していくことが必要である。

今回の介護報酬改定では、各介護サービスにおける口腔衛生管理の充実のため、口腔衛生管理加算（歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が介護保険施設の入所者の口腔ケアを行うこと等を評価した加算）や口腔衛生管理体制加算（歯科医師や歯科医師の指示を受けた歯科衛生士による介護職員に対する口腔ケアに係る技術的助言および指導を評価した加算）等について、必要な見直しを行ったところである。

今後、今回の改定の効果検証を含めて、各種調査研究を実施することとしており、さらなるデータの蓄積が求められるところであり、学会におけるエビデンスの蓄積も期待される。